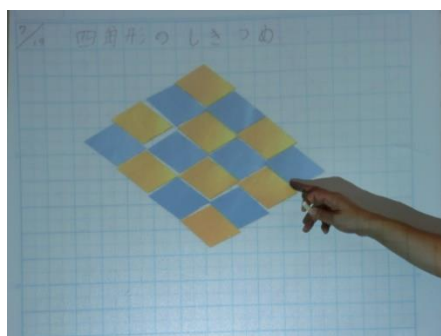


# 校長室だより(No.14)

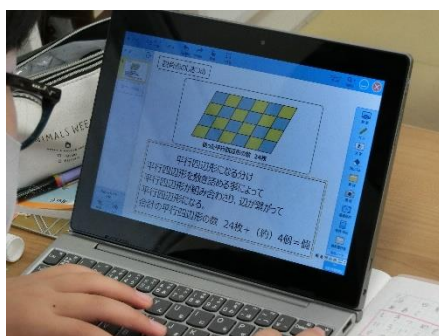
令和3年7月20日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

## 「新しい教科書 デジタル教科書」

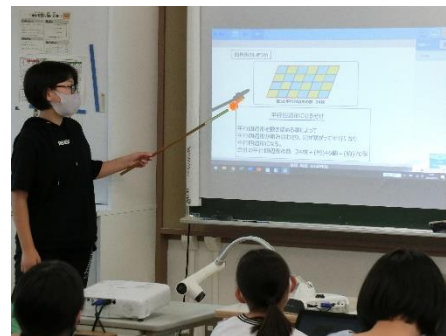
手作業での「しきつめ」



デジタル教科書での「しきつめ」



発表ノートの活用



令和3年度、黒井小学校は「デジタル教科書の活用に関する調査研究」の研究指定を受けて取組をすすめています。これは、デジタル教科書の児童への学習効果、有効な指導方法、それに伴う必要となる機器の環境等の調査研究や、授業でのICTの活用による「主体的・対話的で深い学び」を促進し、教育の質の向上を研究するものです。

学習者用デジタル教科書の活用は、先にも述べましたが、それ自体が目的ではなく、新学習指導要領が狙う「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のための手段であるといえます。したがって、どの単元のごのような学習場面でのどのように活用するか、その際に紙の教科書や教材、あるいはデジタル教材や学習者用パソコンの機能等とどのように併用していくか、学習課題や見通しをどのように持たせ、教師による一斉提示と児童による個別あるいは対話的な学習をどのように組み合わせるか、特別な支援を必要とする児童にどのように対応するかなど、学習者用デジタル教科書を効果的に活用する指導方法を研究していくことを目的としています。

学習者用デジタル教科書の効果として考えられること

①主体的な学習を実現するために

- ・トライ&エラーが簡単にでき、くり返し書き直すことができるため、自分の中で新しい発想が生まれやすい。
- ・図形や写真の利用、教科書への書き込みができるため、自分がわかりやすい教科書になる。

②対話的な学習を授業に取り入れるために

- ・矢印や線の色を変えることができるので自分の考えを出しやすい。
- ・人の考えをもとに、すぐに訂正したり、加筆したりできるため意見を出し合いやすい。
- ・一度に多くの人の考え方に触れられるため、考えの違いを比べやすい。

③深い学びを促進するために

- ・様々な考え方を分類したり、もとの考えに加筆したりしてより良いものにできる。
- ・考え方の経過を見ることができる。
- ・人の意見を参考にまとめることができ、詳しく考えられる。

7月19日の4年生の平行四辺形のしきつめの授業では、「発表ノート」も活用し、手作業でのしきつめも取り入れながら、対話的な学びが充実していました。